

平成30年度 学校評価総括表

| 教育目標 | | 日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の基本精神に基づき、人権を尊重する民主的な社会の形成者として、豊かな人間性と創造性をそなえた生徒の育成を目指す。 | | | 総合評価 | | |
|--|-------------------------|--|------------|--|---|--|---|
| 運営方針 | | 生徒の学ぶ意欲を高め、魅力と活力ある学校作りのために教職員が一丸となって教育活動に取り組む。 | | | B | | |
| 平成29年度の成果と課題 | | 本年度重点目標 | 具体的目標 | | | | |
| キャリア教育の視点から教育活動全般を見直した。基本的な生活習慣の定着や規範意識の向上については、一定の成果はみられるが今後も引き続き「挨拶励行、正しい身だしなみ、時間厳守」の3項目について重点的に取り組む必要がある。また、学習面においては、教員の授業力向上を図り、生徒の学習意欲向上に努めるとともに、計画的に生徒の学力向上や検定取得に向けた取組を深め、生徒が主体的に進路決定できる体制の整備に努める。 | | 社会で通用する人材の育成 | 確かな学力の育成 | | | | |
| | | | 豊かな人間性の育成 | | | | |
| | | | たくましい心身の育成 | | | | |
| 評価項目 | 具体的目標 (評価小項目) | 具体的方策・評価指標 | 自己評価結果 | 成果と課題(評価結果の分析) | 改善方策等 | 学校関係者評価および改善方策 | |
| 学習指導 | ①基礎学力の充実 | BasicStudyタイムは継続実施。さらに内容の充実を図る。また、自ら学び自ら考える主体的な学習姿勢を育てるために、宿題・課題の内容の充実を図る。 | B | 学年やクラスによってBSの時間に温度差があるため、基礎学力の向上を効率よく行えているとは言えない。使用する教材も工夫が必要である。 | 今後も継続して実施するが、課題や補習の充実を図り、生徒に定着させるよう各学年で連携して取り組む。また、落ち着いた雰囲気でのぞむため、6限後の休憩時間を10分にする。 | 子どもの力を伸ばそうと工夫をしている。オープンスクールには実際に行って経験することが大切。商業高校のメリットも知ることができる。 | |
| | ②授業力の向上 | 分かる授業の実践及び授業の工夫改善のため、年2回の公開授業並びに研究協議の実施に努める。また観点別評価について考察し、成績評価の在り方を検討する。 | C | 時間割の関係もあるかと思うが、参加されている先生が固定化されている。観点別については、教科や先生によってばらつきがある。 | 公開授業の実施日を周知し、希望される先生の時間割は空ける。観点別に関しては、すでに実施されている学校に教えてもらったり、また研修会等でそれぞれが研修を積むなど、各教科や個人で取り組む必要がある。 | | |
| 生活指導 | ①礼法・マナー・身だしなみ等に対する意識の向上 | 登下校時や授業の始業終業時等を通じて、挨拶・言葉遣い・身だしなみ等についての指導を継続し、意識の向上を図る。 | C | 学期が進むにつれ、挨拶や言葉遣い・身だしなみが少しずつ崩れていく傾向が見られた。小さな乱れの積み重ねが多くの問題行動につながったとも考えることができる。 | 全職員によるある一定の足並みのそろった指導が必要となる。生徒は大人である教員の姿を見てい。指導する教員と指導しない教員とで異なる対応をする生徒も増えてきているため、それぞれの教員でアプローチの仕方は異なっても、必ず声かけをするということを徹底する必要がある。 | | よく指導している。小さいことからコツコツやっていくことが必要。校則を守っているのは自己肯定感を生徒自身感じていることを認めることが大切。警察と連携していることややっていくこともできるのではないかな。 |
| | ②規則正しい生活習慣の確立 | 規則正しい生活習慣を身に付けさせることにより、遅刻や欠席・早退を減らす。遅刻については年間500件以下を目標とし、時間を守る意識の向上も図る。 | C | 遅刻を繰り返す一部の生徒の影響により、他の生徒も遅刻に対する抵抗感が低くなるという悪循環を止めることができなかった。遅刻だけでなく、授業への遅れ等も目立つようになり、意識の低下が見られる。 | 遅刻を繰り返す生徒に対しては、個別に話をし、保護者との連携を強化する等の粘り強い取り組みが必要となる。学級や学年での時間を守ることに對する意識の醸成が必要である。 | | |
| 進路指導 | ①就職先の開拓 | 企業との連携を密にし、求人への依頼と情報収集に努める。求人依頼状を150社以上に発送し、企業訪問を30社以上行う。 | B | 企業訪問については日程の関係で20社程度となったが、求人依頼は200社に行った。今年度は900枚近い求人を頂くことができた。初めて高校生を採用する企業からの求人が増加したのが目立った。 | インターンシップや進路ガイダンスなどを通して、様々な職業について理解させ、生徒の希望や適性に応じた進路先を選択できるようキャリア学習の充実を図りたい。 | | |
| | ②多様な入試制度の活用 | 専門科目で取得した資格を活用した入試制度を積極的に利用し、進学者数の増加を目指す。 | B | 進学者の80%以上が資格や専門的な学習を活かした入試制度を利用している。普通科高校からでも進学が難しい学校にこの制度を利用して合格しており、今後もこの制度を積極的に活用させ、進学者数の増加を図りたい。 | 専門高校の専門性を活かした入試制度により、多くの進学先があることを広く世間に知らせ、進学希望者の増加を図るとともに本校の入学希望者の増加につなげたい。 | | |

| | | | | | | |
|-----------|--------------------------|--|---|---|---|---|
| 人権教育 | ①あらゆる差別に対しての生徒、職員の人権意識向上 | 毎月11日の「人権を確かめ合う日」に合わせ、人権啓発資料を準備し、生徒、職員が差別解消に向けた取り組みができる一助を担う。 | B | 毎月各クラスのHR運営委員の協力を得て、人権通信を作成した。教員用には1部ずつ、生徒用には各クラス掲示、担任からの内容についての展開を行うという形で実施した。また、職員研修の機会を年2回持つことができた。 | 生徒、教員の人権意識の向上につながっているか、フィードバックが必要で、その方法についても検討をしなければならない。今後も情報の共有をめざしたい | スマホについては、何よりも本人の道徳性が大きいので、道徳性の指導が重要。ネット被害ばかりに注目が行くが顔の見えない相手とながっているという意識が希薄なのでこの指導が必要。 |
| | ②違いを豊かさにつなげるHR展開 | 各学年のHRを利用し、ネットリテラシー、性的マイノリティ、男女共同参画、在日外国人問題等を学習する機会を持ち、共生社会に向けた意識向上をめざす。 | B | 各学年ともに人権HRの事前研修を持ち、テーマに沿ったHR展開を行うことができた。また、放送人権学習についても事前研修を持ち、各HRで独自の展開ができた。 | 各学年の人権HR学習を通して今後の課題を探り、より効果的な展開方法を考えていきたい。また、共生社会に向けた個々の役割についても自覚を促したい。 | |
| 文化活動 | ①読書習慣の確立 | 親しみやすく魅力的な図書室作りに努め、1日の利用者30名以上を目標として、読書習慣の確立を目指す。 | B | 展示の募集を行い、企画展示を実施した。また様々なテーマのもとで図書の展示を行い、生徒の興味・関心をひく努力を継続した。1日の平均図書館利用者は32.7名であった。 | 各種の展示・イベント等を継続して行い、合わせて図書館の内容の、さらなる充実をはかる。 | 文化祭を見学に行ったが、一生懸命やっていた。また、終わった後もきれいに片付けて帰っている。地域の子どもと高校生が一緒に活動する機会が是非とも必要。 |
| | ②文化祭の充実・向上 | 生徒会・学年との連携を密にしながら、全校体制で文化祭実施にあたり、生徒の積極的な活動を促すことにより、自主性と協調性を向上させる。 | B | 生徒会等と連携を行いながら、より良い文化祭を目指して、生徒とともに努力する事が出来た。文化鑑賞行事では課題が残ったが、次年度に向けて鋭意検討していきたい。 | 生徒の意欲を引き出し、協調性や企画力を養う事が出来る文化祭への取り組みを継続する。 | |
| | ③地域との連携 | 「桜井冬のプラ文化祭」等を通じて、地域及び他校との連携を深める。 | B | 「桜井本町通り街づくり協議会」等と交流を深め、地域との共通理解を深める事が出来た。他校との連携については、課題が残った。 | 継続して地域との連携、交流に努める。他校との連携については、各種の制約もあるが、出来る事を模索したい。 | |
| 体育活動・健康教育 | ①体力の向上と運動部活動の活性化 | トレーニング方法の工夫や事前指導を実施し体力テストで県平均を4種目以上上回る。女子の運動部加入率25%以上を目指す。 | C | 体力テストの結果については目標達成はできなかった。女子の運動部加入率も18.6%と目標を達成できず、昨年と比べても減少した。 | 生徒の体力向上と運動部加入率は関連性があるのでさらなる工夫と努力が必要である。 | |
| | ②保健指導の推進 | 教科保健の授業や保健だよりを通して、生徒の健康に対する意識を高める。各種検診の精検受診率20%以上を目指す。 | A | 周知を徹底した結果、精検率が昨年度より大幅に改善できた。保健だよりや保健室前の掲示物を通して健康に関する意識付けを行った。全体の保健指導は行えたが、全体指導後の個別指導においては課題が残った。 | 全体の保健指導を継続していく。保健室の来室者が増える中で、個別の保健指導を行い、生徒の心身の健康発達を促していく。 | |
| | ③食育の充実 | 教科保健の授業や食育だよりを通して、食育の充実を図る。朝食摂取率75%以上を目指す。 | B | 朝食摂取率の向上は達成できていないが、朝食を食べない生徒の率は昨年度比減少した。 | 保健や家庭科とも連携して朝食の必要性について継続して啓発していく。 | |
| 環境整備活動 | ①環境美化を通じて公共心の育成 | 教室やトイレなど共用箇所について、正しく使用する必要性を折に触れて生徒に展開する。 | B | トイレや手洗い場の使用方法に関しては本年度も問題点が多かった。ペーパーホルダーの使用方法がわかりづらい。 | トイレ清掃の仕方についても指導しながら、公共物の大切さを粘り強く注意喚起していく。 | |
| | ②防災意識の向上 | 実践的な防災訓練を企画・実施する。 | C | 体調不良の生徒が教室で居残り、その情報が全体に伝わっておらずダタバタした防災訓練になった。実際の災害時対応にも課題を残した。 | 防災訓練時の生徒対応や情報伝達のあり方について今一度教職員で確認する。 | |
| 商業科 | ①検定取得の向上 | 各検定において補習講座などを実施し、生徒の進路実現に結びつけるための指導を行う。 | C | 検定集中補習について一定の意識向上は見られるがクラスによっての温度差が大きい。全商1級が進路に結びつく意識が持てていない。各検定で合格者数が振るわなかった。 | 普段の授業のあり方に問題がある。生徒にやる気、意欲を出させ、わかる授業を工夫する。習熟度に合わせた補習を実施したり、研修を重ねて教員の指導力を向上させる。 | 販売実習の対応もいろいろとよく指導していると感じる。 |
| | ②実学教育の充実 | 実社会で通用するために、販売実習や商品開発などの体験的な学習の充実を図る。 | B | 販売実習の機会も増え、生徒のスキル向上を図ることが出来た。地域との交流も進む中で生徒の活躍する機会が増えた。ただ、特定の教員の負担が大きい。現状では限界。 | 商業科だけでなく、他教科の先生方にも関わって頂けないか。今後も将来の職業選択に向けて多数の生徒の参加を促していく。 | |
| 情報科 | ①最新の情報科学を踏まえた学習指導の工夫 | 進展著しい情報技術を踏まえ、生徒の実態に合った丁寧な指導を行う。 | B | 授業の中でプログラミング的思考を育む指導内容を取り入れたほか、社会人講座でも前年度にはない内容を実施できた。プログラミングには個人の習熟度に差があることから、さらに個に応じた指導ができるように工夫が必要である。 | 様々な分野でプログラミング的思考につながる指導が可能なので、今後も各分野で積極的に取り入れながら指導案を構築していく。 | |
| | ②国家試験、検定合格率の向上 | 各学年の各検定合格率70%以上を目指し、補習等を充実させる。 | B | 1、2年生を中心に達成できた検定があった。しかし、情報処理検定1級などの難関試験やITパスポート試験などではこの数字を達成できず、今後の課題だと感じている。 | 上位級の検定に対する補習などで、より細かなクラス分けを実施できるようにし、個に応じた指導が可能となるようにする。 | |

A:十分である B:ほぼ十分である C:あまり十分でない